

クラス番号	628	担当教員名	片山善博
テーマ	現代社会の人間と文化		
著書・論文 研究課題等	近年の出版物 単著：『生と死の倫理』（2014）DTP 出版、共著：『共生社会 I—共生社会とは何か』（2016）農文協、『ヘーゲル講義録入門』（2016）法政大学出版局、『新時代の源氏学 9 架橋する〈文学〉理論』（2016）竹林社、『〈居場所〉の喪失—これからの〈居場所〉』（2015）学文社、『西洋哲学の軌跡』（2012）晃洋書房、『21 世紀における語ることの倫理』（2011）ひつじ書房、共訳：『ヘーゲルハンドブック』（2016）知泉書館、『ヘーゲル講義録研究』（2015）法政大学出版局 研究テーマ：近代ドイツ哲学、承認論		

ゼミナール概要

キーワード：他者、自己、文化、自然、社会

目的、内容、方法等：本ゼミでは、現代社会のさまざまな「問題」について、自分で考え、説得的に意見を表明できることを目指します。「問題」といっても、あらかじめ与えられているものではなく、自分の関心を深めていく中ではじめて生まれるもののことです。したがって、自分で〈自分の問題〉を見つけることをまずは目指し、見つけたら、それについて説得的に意見が述べられるよう練習をします。この練習とは、他者との意見交換を含めた継続的なコミュニケーションです。他者にわかってもらうために必要なものは何か、このことをゼミの仲間と考えていく練習です。ゼミの内容については、ゼミ担当者の関心が、哲学であるため、〈人間〉に関わるさまざまな事象を対象として、それらについて原理的に考えていきます。どのようなテーマをあげるにしても（すべてのテーマは人間に関わっているため）、まずは〈原理的に考えるための方法〉を習得することが、ゼミの目的であり内容となります。専門演習 I では、4 年生で作成する卒業論文に向けての〈基礎的な力の育成〉をします。そのために、リベラル・アーツ（自由に考えるための技法）に関する基本的な文献を読みます。その上で、問題を見出し、論点を明確にし、それを展開していくための方法について学びます。文献の探し方や使い方、アンケートの取り方、調査したことの文章化の練習を行います。そして文章化したものをもとに、口頭発表ができるようにします。

授業計画：専門演習 I は、前期、文献購読を行います。文献については、初回に決めたいと思います。文献を購読し、論点を探し出し、それを基に議論をします。そして議論したことを 600 字程度にまとめます。後期は、口頭発表です。ゼミ参加者の人数によりませんが、一回ずつ担当することになります。自ら選んだテーマ（著書でもよい）についてレジュメを作成し、それをもとに発表します。レジュメには、論点、調べたことの要約、そして自身のコメントおよび疑問点を書きます。口頭発表（20 分程度）を踏まえ、参加者間でディスカッションをし、話し合ったことについて、次週までに参加者全員にコメントを記した短い文章（600 字程度）書きます。自らの意見を簡潔に文章にできることがねらいですが、これは思考を深める上でも重要な作業です。これとは別に、年に数回、映画や音楽鑑賞などの時間を設けたいと思います。専門演習 II では、各ゼミ生は自ら選んだテーマに即して卒業論文を作成します。卒業論文提出までに 2 回中間発表を行います。また、ゼミ時間外に個別指導を適宜行い、卒業論文を作成していくことになります。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。コミュニケーションを通して人は自己形成をしていくものと考えています。異なる意見を尊重しながら吟味する。そのことを通して互いを認めていこうという姿勢で参加してください。